

ときよう すくわくプログラム実践報告書

所在	株式会社ソラスト
園名	ソラストときわ台保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な自然や音に気付き、感じたことを友達と共有しながら表現する楽しさを味わう。

<テーマの設定理由>

・生活や遊びの場面で草花に関心が深まってきたところから、自然の事象に興味や関心が深まり美しいものや心を動かす出来事に触れイメージを豊かにする探求を行うため。

2. 活動スケジュール

- ・野菜の購入・水やり（観察）
- ・観察カードの記入
- ・観察カードをグループごとに1つの模造紙にまとめる
- ・生活発表会でまとめたものを保護者の方の前で発表する。
- ・楽器による自然の音探し
- ・楽器に触れる前にきらきら星の音符を歌い、ドレミを覚えられるようにした。
- ・ハンドベルは繊細な楽器なので、使い方を保育者が実践し、わかりやすく伝えた。
- ・音符を覚えてきたらハンドベルを使い、ゆっくりと練習できるようにした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

プランター・ジョウロ・観察カード（手作り）・鉛筆・色鉛筆
ハンドベル・ホワイトボード・磁石で付く楽譜（手作り）

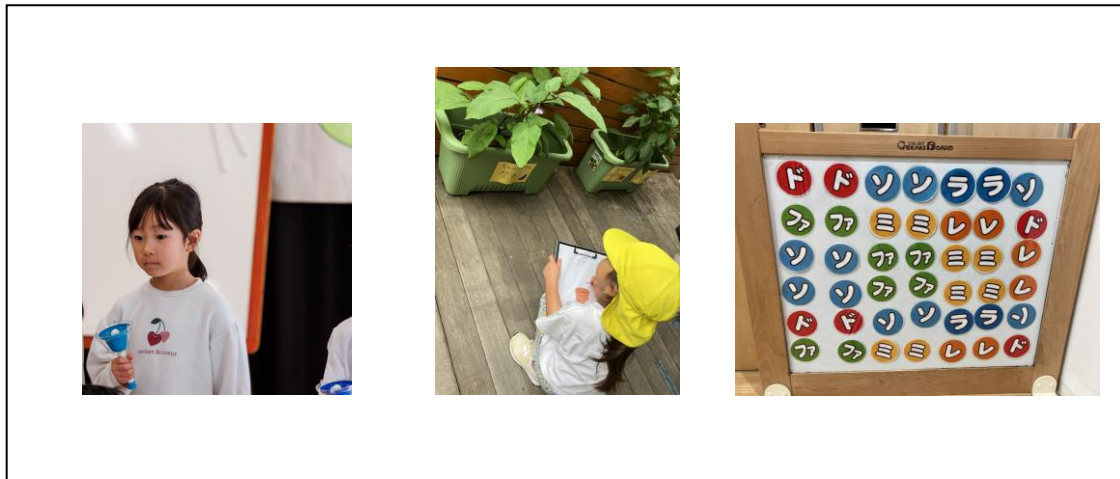
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

野菜の栽培は、去年から1つ上のクラスが育てていることもあり、野菜の成長過程に対し、興味関心を持ちながら取り組むことができていた。自然の音探しでは、ハンドベルを使い強弱で風の音を表現してみたり、雷にも挑戦してみた。得意な子が前に立ち、鳴らし方を子ども同士で伝えていたり、保育者が隣でハンドベルを使い、様々な姿を真似しながら取り組んだところ、生活発表会当日は全員がきれいな音を鳴らすことができた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

観察カードを描く際は、始めは文字や絵を描くことが難しく、1人で進めることが難しかったが、慣れてくると自分で進めることができ、文字や絵を描く力にも繋がった。ハンドベル用意すると、普段保育園にはない楽器に興味関心を持ち、見様見真似で鳴らしていた。「きれいな音だね」「風はどんな感じ」などと興味津々で友達が鳴らす音を聞いていた。



5. 振り返り

- ・野菜の観察カードの記入を通し、絵や文字を描く力だけでなく、友達と協力する大切さや自分の気持ちを言葉や文字で表す大切さを学ぶことができた。
- ・自然を音にするというねらいから、それまで子どもたちが気づかなかった、自然の中にある音に興味を持つことができた。探求につながっていった。

・見慣れない楽器に興味を持ってくれた分、慣れてくると使い方が少し雑になってしまうことがあったので、楽器の使い方や大切さを随時伝えるようにした。

・みんなで音合わせたときに綺麗な音が出たり、息が合ったりすると、嬉しそうな表情を浮かべていた。

<振り返りによって得た先生の気づき>

・保育園では普段使わない楽器を用意したことで、興味関心を持って取り組むことができていた。子どもたちが自分で見つける音探しだったため、子ども同士の会話も活発になり、更に関心が広がってくのを感じた。ある程度音が集まってきたところで、演奏を行ってみた。自分たちで演奏した音を録音し、みんなで振り返る時間を作ったので、「ここはこうしたほうがいいんじゃない？」と子どもたち同士で意見を出し合うこともできたので、テーマの「友達と協力する」に繋げることができた。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	株式会社ソラスト
園名	ソラストときわ台保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音楽に親しみながら、友達と一緒にリズムを感じて楽しく表現する

<テーマの設定理由>

朝夕の歌の時間に、音楽に合わせて自然に体を揺らしたり手拍子をする姿が多く見られた。また、楽器を使う際に音を鳴らすことに興味はあるが、リズムに合わせることや友達と音を合わせることは難しい様子があった。

2. 活動スケジュール

- ・週一回程度楽器遊びの時間を設定
- ・カスタネット、タンバリン、鈴の基本的な持ち方・鳴らし方を伝える
- ・親しみやすい曲で合奏
- ・発表会の場を設け、達成感を味わう機会を作る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

準備したもの 鈴 カスタネット タンバリン 発表会衣装 (エプロン)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・カスタネット・タンバリン・鈴の基本的な使い方や音の出し方の紹介
- ・曲に合わせて、手拍子→楽器と段階を踏んで練習
- ・練習後、簡単な発表会を実施

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・曲が流れると笑顔になり、積極的に楽器を鳴らしていた
- ・最初は自由に音を鳴らしていたが、次第にリズムに合わせて演奏しよう意識する姿が見られた
- ・発表会では少し緊張しながらも、曲が始まると楽しそうに参加していた
- ・きれいに音が合わさった時に喜びや達成感を表す姿があった



活動の様子が分かる写真（2枚以上を貼付してください）

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもたちは好きな曲の時だと集中力が高まり、自然とリズムに乗れることが分かった
- ・しかし、楽器の扱いにまだ慣れていない子もあり、個別に持ち方やたたき方を支援する必要がある
- ・音を合わせることよりも「楽しく鳴らす」ことを優先したことで、子どもたちの興味や関心が広がるのを感じた。

ときょう すくわくプログラム実践報告書

所在	株式会社ソラスト
園名	ソラストときわ台保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光と影と色で遊ぼう

<テーマの設定理由>

光と影と色の不思議な関係に興味を持ち、光の形や大きさの変化を楽しみ、想像力や表現力を育むことが目的

2. 活動スケジュール

網戸から光が差し込み、床に網戸の影がうつっていることに気が付き、観察していた。戸外でもカラーセロハンを使用した制作を光にかざすなど、光と影で遊ぶことを楽しんでいった。

その姿を見て、更に光と影と色に興味を持てるように懐中電灯を用意し、光遊びを行った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

懐中電灯・カラーセロハン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

懐中電灯の光を追いかけたり探したりして遊ぶ。おぼけのイラストを貼り、お化け屋敷ごっこを行う。光への興味が深まったところで、カラーセロハンを用意し色の変化を楽しむ。
→「花火みたい」という子どもの気付きから生活発表会では、懐中電灯を使って花火を表現する

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

暗いところではより明るく光ることに気付く。
星みたいだね、花火みたいだねと様々なものに見えている様子だった。
光の形の変化を楽しむため、段ボールに穴を開けたものや花火の形をした型などを用意した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

光や色の変化を楽しむ中で子どもたちから様々な発想が生まれていた。
懐中電灯を壁に照らした際に近づくと光が小さくなる、離れると光が弱くなるが大きくなるなどの変化も楽しむなど様々な気づきがあった。

ときょう すくわくプログラム実践報告書

所在	株式会社ソラスト
園名	ソラストときわ台保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香り、などに気付いたり感じたりして楽しむ。

色についての関心が高まり、さまざまな色を指差して確認しながら保育者と色を確かめ合う姿が見られてきていた。

<テーマの設定理由>

2. 活動スケジュール

2歳児クラスになってからクレヨンや絵の具の活動などダイナミックに好きな色を手にとって触れて楽しむ機会は多くなっていたため、絵の具やクレヨンだけでなく、夏ならではの”水“を使った色の変化を今度は探求して楽しむことにした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・水 ・食紅(赤、青、黄) ・透明カップ18個 ・スポット12本 ・絵本

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・「いろ」という絵本でどんな色があるか探求。
- ・赤、青、黄の3色を食紅で作り、色の変化を実際に見せる。
- ・外で自分で混ぜて変化を見てみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

緑、紫、茶色に変化していく様子を楽しんでいた。足す量によっても色が変わっていくのを確かめようと、スポットだけでなく実際に容器をもって移し替えたりもしていた。

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の色水実験で色と色が混ざり合うことで色が変わっていく様子を理解していったように思えた。

日々様々な色に触れ、積極的に触れていた。今後も楽しみながら感性を豊かにしていくような活動をしていきたい。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	株式会社ソラスト
園名	ソラストときわ台保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生活や遊びの中で、興味のあることや経験したいことなどを自分なりに表現する。

<テーマの設定理由>

一人で玩具を使って遊んでいる姿から徐々に日常での興味を持つことに対して自分なりに模倣したり、やってみたいことを保育者に伝えたりしていた。その意欲を子どもと一緒に探求につなげていった。

2. 活動スケジュール

1歳児クラスでは日常の興味を遊びとして取り入れ、興味を持ったことを模倣してみようとする。興味を持ったことを保育者が汲み取り、遊びに取り入れることを遊びとして楽しめるようにした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・日常の興味が遊びに取り入れられるよう環境を整えた。
- ・おままごとセット（お皿、食具、食べ物、調理器具など）
- ・スカート、バンダナなどの布遊び、人形、ブロックなど

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

おままごとや布遊び、ごっこ遊びなど生活の中で身近に感じられることや興味を持ちやすい活動を日々の遊びに取り入れるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

最初は保育者が遊びに誘い、おままごとなどの見本を見せたり作ったりすると興味を持って近づいて来たり、見つめたりしていた。保育者と子どもが遊んでいる姿を見て他の子どもも同じ遊びを模倣しようとしていた。徐々に子ども達から「おままごとしたい」など自らの思いを伝えて取り組もうとする姿が見られていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

おままごとや人形遊びなどのごっこ遊びでは改めて日々の日常や活動、さり気ない様子などから子ども達は興味を持ち、模倣したり取り組んでみようとしたりする姿が見られていた。それを援助することで子どもたちの興味や感心、探求に繋がっていった。遊びが盛り上がるようにより充実した玩具や布などを取り入れることが大切であると感じた。引き続きごっこ遊びなど日常の興味が広がるよう玩具などを用意し環境を整えていく。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	株式会社ソラスト
園名	ソラストときわ台保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

いろいろな素材に触れてみよう

<テーマの設定理由>

戸外活動で砂や人工芝、シャボン玉などに興味関心が見られたので、普段触ったことのない素材を使い感触遊びを探求することにした。

2. 活動スケジュール

全員が触ったりしても安全な素材が片栗粉だったため、片栗粉を水に溶かし食紅で色を付け固まったものを触ってみることにした。(完了食の子どもたちは寒天も使えたので寒天を触ってみる)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

片栗粉、水、絵の具(青、黄色、緑、ピンク)、画用紙

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

寒天も片栗粉も水分量が少ないものと多いものを作り、同じ素材でも違う感触を感じられるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

ドロドロの片栗粉に嫌がることなく積極的に触って感触を味わっていた。片栗粉が伸びる様子や垂れ落ちてくるのが子どもたちには面白かったようで喜んでいて。テーブルにも塗り広げている子どもの姿が見られたので画用紙を用意し形に残すことにした。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

豊かな体験を通して、「これなんだろう」「おもしろそう」「やってみたい」の意欲につながり、0歳児クラスでも好奇心を発揮しながら探求絵とつながっていった。同じ素材でも水分量を変えたことで子どもたちがドロドロとした柔らかいものが好みだということが分かった。また、子ども1人ひとりによって色の好みが見られた。